

一般質問

◆ふるさと未来創造部について

質問 人数を含め、来年度の各総合支所の体制について伺う。

答弁 人数の大きな変更は考えていないが、DXの推進などによって安心して市民サービスが提供できるよう体制の強化を図る。

質問 総合支所の役割は。また特にDX推進については、高齢者の方々への理解、丁寧な説明が必要では。

答弁 より身近な行政の窓口であることを認識している。機器の使い方の説明を行うことはもちろん、例えばテレビのリモコンで市民サービスが提供できる程度まで改革できないか検討を進める。

質問 災害時の対応を含め、将来にわたり地元で精通した職員配置をお願いしたいが。

答弁 各総合支所長からも地域出身の職員配置の要望を受けているが、年齢、階級構成などから難しい面もある。しかしながら、災害時などには出身地で勤務させる指示を出す場合もある。

◆市民満足度調査について

質問 調査のなかで除排雪に対する市民の感心が高く、より充実した対策を進めるべきでは。



加藤 昭嗣 議員

答弁 自助、共助の力を取り入れ、調査の結果にとらわれず対策を講じていく。

◆学校教育について

質問 稲川地域の通学路の危険箇所状況と対応について伺う。

答弁 16の危険箇所のうち、15箇所では今年度までに改善できる予定である。

質問 市道下平城線の歩道整備の今後の計画と工事中の代替の通学路の選定状況について伺う。また、三梨地区までの延伸をお願いしたい。

答弁 令和4年度は測量と道路の詳細設計、5年度に用地測量と物件の調査、6年度に用地の取得、7・8年度に工事を実施する。代替の通学路については、保護者を含めて状況を確認しながら通学路の方針を早期に示してまいりたい。

◆インボイス制度の導入について

質問 シルバー人材センターにおいては、制度導入に伴う影響は極めて大きいと考えるが、市の対応策について伺う。

答弁 シルバー人材センターの会員のほとんどには影響がないが、シルバー人材センターは課税事業者のため制度の適用を受けられることとなる。令和四年からシルバー人材センターと協議を重ねている。運営に際し、過大な影響が生じることがないよう、引き続き連携しながら対応していく。

◆地域共生社会について

質問 地域共生社会実現に向けて、どのように取り組んできたのか伺う。

答弁 庁内において組織の横断的な調整を図り、地域共生社会へ一体的に取り組むべく研修会を行うとともに市民の皆様向けには地域共生社会への認識や理解を深める目的で地域福祉セミナーを開催し、意識の醸成に努めている。

◆聴覚障がい者と難聴者への対応について

質問 加齢性難聴者の補聴器購

入に對しての公的助成制度を創設する自治体が全国で増えているが本市の考えを伺う。

答弁 本市では、加齢性難聴者への助成は行っていない。全国市長会では、身体障害者手帳に該当しない加齢性難聴者への助成について補助制度の創設など必要な措置を講じることを求めている。今後も、国や県、他の自治体の動向を注視していく。

◆手話言語条例の制定について

質問 手話等の普及、理解促進などを図るための手話言語条例の制定について、本市の考えを伺う。

答弁 手話言語条例の制定の予定はないが、手話奉仕員養成事業を実施し、手話の普及、聴覚障がい者への理解を深める活動を行っている。



宮原 晃 議員

湯沢市議会
ユーチューブチャンネル
一般質問の動画を
ご覧になれます。